

北京日本人学校における歴史学習と実践

前北京日本人学校 教諭

兵庫県明石市立朝霧小学校 教諭 安藤 晃弘

キーワード：在外教育施設，北京，小学校の社会，歴史学習

1. テーマ

歴史学習や体験活動を通して、異なる文化を受け入れ、共生しようとする態度や能力を育む

2. テーマ設定の理由

小学部6年生は、社会科で日本の歴史について学習している。また、歴史学習に関連した校外学習や修学旅行、中国・韓国の小学校との交流学习等、対外的な活動も数多く設定されている。日本の歴史を学ぶ際に、その背景として隣国中国の政治的・文化的影響力や人的・物質的交流抜きには成立しえないことに気づく。そしてそれは、実は現代も同じかそれ以上であるとも言える。子どもたちが学ぶここ中国（北京）には、世界遺産や歴史的遺物が多数存在する。しかし、積極的に関わろうとしない限り、それは単なる場所・物としてしか認識されないのであり、宝の持ち腐れでもある。歴史学習にしろ、体験活動にしろ、机上ではなくその場に行き、そこにいる人々と触れ合うことを通してしか体得できないものがあり、それは子どもたちにとって欠かせない経験である。そして、その学習活動において必要となるのが、「異なる文化を受け入れ、共に生きていこうという態度やコミュニケーション能力」であると考えられる。これは、本校の教育目標の柱の一つである“国際性豊かな子”にも通じる。この態度や能力を育んでいくことが、複雑でありながら緊密な日中関係の中で生きる子どもたちが、よりよい生き方をする上で大事である。以上のことから本テーマを設定した。

3. 研究仮説について

歴史学習を通して、日本と中国の関係や文化的な深いつながりを学び、これまでの実生活での気付きや体験を絡めることで、よりよい日中関係について考え、自ら関わろうとする力や態度を身につけることができるであろう。

4. 指導の手だて

- ・校外学習において事前・事後の学習を充実させる。
- ・日本と中国との関係について自分の考えを持つために、実生活での気付きや体験を振り返る時間をとる。
- ・日本と中国との関係を明確にするために、年表などにまとめながら、歴史的な背景を押さえる。
- ・いろいろな学校と交流する中で、中国で生活する人々の気持ちを知る。
- ・交流活動の中に遊びの活動だけでなく、平和的なテーマを取り入れる。
- ・児童からプロジェクト委員を募り、自分たちで交流活動を運営できるようにする。
- ・中国の歴史や文化の違いを知るなかで、中国に対する自分の思いを持ち、生活場面の中で中国の人々とよりよい関係をつくろうとする。(Eメール、手紙の交換など)
- ・中国について、日本の学校に発信する。

5. 具体的な実践内容

(1) 抗日戦争記念館見学及び盧溝橋見学

① ねらい

- ・ 日中戦争時の遺跡に直接触れ、日中関係の歴史を体験的に学ぶ。
- ・ 歴史の舞台でしか体験できない内容を体感し、確かな社会科の学力を身につける。

② 児童の感想

- ・ 盧溝橋はあんなにきれいな橋なのに、あそこで日中戦争が始まったなんて信じられない。事前学習で見た「丸く細長いもの」は、あの中に人を入れて殺してしまうものだった。私はそれを知った時、人間がこんなものを考えつき作ってしまうことに驚き悲しかった。人間というものはみんなで協力して生きていかなければいけないのに、人と人同士が殺し合うなんてことは一生してはいけないと思う。
- ・ たくさんの人が殺されていた。日本は大人も子どもも女性も容赦なく殺していたことがよくわかった。今は人を殺したら犯罪になる。だけど戦争の時は人を殺すことは当たり前だったのだろうか。私は戦争がよくわからない。人の命が一瞬のうちにたくさんなくなり、ひどいと思う。そこまでして他の土地を奪い、地位を高めたかったのか不思議になった。
- ・ 僕は命を大切にしたいと思う。僕が軍隊の一人だったら今すぐ戦争をやめたい。罪のない人を殺すこともできないし、子どもや他の人々を殺したくないからだ。日本軍は負けたくない気持ちもわかるが、罪のない人まで巻き込んで殺してしまうのはあまりにも残酷なことだと思った。二度とこんな戦争が起きないように中国と仲良くしていきたい。
- ・ 戦争は負けた国が悲しみ、勝った国の国民もたいした得がないので戦争なんてするべきではないと思った。戦争は悲しみばかりを生み、国の仲も悪くなる。現在の平和な世の中を続けるために、世界の国々で交流し仲良くなり、貧しい国を救ってあげたり、まだ戦争をしている国を止めたり、世界の各国が仲良くできる戦争一つない未来にしたいと思う。
- ・ 日本人がどれだけひどいことをしたかがよくわかった。でも中国人も負けられないほどやっていると自分は考えた。確かに日本人は子どもや女性を無差別に攻撃している。中国側から見たら日本人は最低だったかもしれない。でも日本側からみたら、子どもが成長し攻撃してくる兵士になったら日本も困るわけだ。また、中国人は日本人を倒したら素晴らしいなどと感想を言っている。これは日本も同じはずだ。どんなにひどいことでも、違う見方をすればどちらが正義かなどわからなくなるはずだ。だから僕は、記念館に書いてあったことを見れば見るほど疑問が頭の中から出てきた。でも、日本人がそこまでひどいことをしたのも事実だ。多くの人を殺したのも事実だ。だからこの気持ちを一生忘れずにいたい。

(2) 社会科授業 ～年表を作ろう～

① 題材名 中国と日本の関係年表をつくろう

② 題材について

6年生になり、歴史学習を通して中国と日本の関係は古くからとても深いことを学んできた。卑弥呼が生きていた邪馬台国の時代に始まり、飛鳥時代には遣隋使など、多くのことを中国から学んできている。こういった様々な文化交流から見て、中国とはとても深い関係にあったと言ってよい。

しかし、近代に入り日本は、富国強兵の旗印の下、朝鮮や中国へ侵略していった経緯がある。それらの史実をふまえた上で、ここ北京にある歴史的価値の高い遺跡を見ることで、日中関係の理解を深め、多くのことを学ばせたい。また、それらのことをまとめ自分自身の考えと交えながら、戦争について考えさせたい。本時の目標は、「今まで学習してきた内容を思い出しながら、日本と中国の関係を年表にしてみよう」である。それを受け児童それぞれが戦争についての考えを深め、今後の学習や社会のあるべき姿を考えていく。

今回は、日清戦争中の中国人と日本人の気持ちをそれぞれ考え、今まで対等だった関係が崩れてきたことを実感させたい。「日本人がしてきたことに対して、中国人はどのように思っているのか」、「日本人はどのように思って戦争をしたのか」そして、中国と日本の過去の事実を知った上で、どんな日中関係を築いていきたいか、自分には何ができるのかを考える機会としたい。

③ 本時の展開

- (a) 目 標 ○中国と日本の関係を思い出しながら年表を作ることができる。〈知識・理解〉
 ○日清戦争時の中国人の気持ちと、日本人の気持ちを考えることができる。〈思考・判断〉
- (b) 準備物 弥生時代～大正時代の年表
- (c) 展 開

	学 習 の 流 れ	備 考
導 入	○今までの歴史学習の経緯を確認する。 ・弥生時代～明治時代まで	
展 開	○それぞれの時代での日本と中国の関係を年表に書き入れる。 ・弥生時代～大正時代まで ・その時々出来事を書き入れる（米・養蚕・仏教伝来など） ・日本から見た中国の存在を書き入れる （先生・友だち・貿易相手など） ○中国の人々の気持ち、日本の人々の気持ちを考え、発表する。 《中国の人々の気持ち》 ・命をかけて自分の国を守り抜こう ・なぜこんなひどいことをするんだ ・他国を犠牲にして繁栄する気か 《日本の人々の気持ち》 ・領土を増やせ ・他の人を傷つけてまで領土はいらぬ ・なぜ人を殺さなければならないのか	・資料集や教科書を使って既習事項から確認する。 ・分からない部分は班で話し合い補い合う。 ・いろいろな立場から考えることができるようにする。
ま と め	今後、あなたにできることは何ですか	・よい意見を取り上げ紹介する。

- (d) 評価 ○中国と日本の年表をつくり、関係を的確に理解できた。〈知識・理解〉
 ○戦時中の両国の人々の気持ちを考えることができた。〈思考・判断〉
 ○今後の自分たちが進む道を考えることができた。〈思考・判断〉



